

母親 病院に 虐待 病院 見相 まっ 母親 型を 作を 関係 こと 見の 致す

地検に送致、報告した。

東京都八王子市の自宅で一れた高校一年の男子生徒一付。

## 市原乳児衰弱死 23歳母を起訴

千葉県市原市で一月、生後十カ月の小西紗花ちゃんが衰弱死した事件で、千葉地検は十八日、保護責任者遺棄致死罪で、母親の無職小西理紗容疑者(三三)を起訴した。

母親が健康状態に不安を抱え虐待リスクが高いとして、事件前から周囲も異変に気付いていたが、悲劇を防げなかった。

理紗被告は事件前、アパートで夫と幼稚園児の長女、保育園児の長男、紗花ちゃんの五人で生活。住民によると昨年九月ごろから部屋の窓はシャッターが閉められ、ベランダはゴミが山積み。一家の姿を見ることが少なくなったという。

近くの三十代男性は、長女と長男がよくアパート一階のベランダで砂遊びをしていたのを見たとい、「親が子どもに構っていない

## 届かなかった救いの手

と感じた」。紗花ちゃんについては「見たことがなく、四人暮らしだと思っていた」と振り返る。

近所の三十代女性は、理紗被告と「(子どもが)大きくなったね」と言い合う仲。人見知りだったが、声を掛ければよく話したという。だが、昨年六月以降は顔を見ることがなくなった。長女と長男を園に自転車で送迎していたといい、「一生懸命子育てに取り組んでいた。事件になる前に、何か自分にもできたのではないか」と自問する。

昨年秋ごろから、長女と長男は幼稚園や保育園を休みがちに。保育園関係者は「(理紗被告は)それまでも育児疲れのような様子があった。欠席が増え、おかしいと思った」。昨年十二月には、被告が以前連れていた紗花ちゃんを見

かけなくなったと、幼稚園が市に連絡していた。

市原市は昨年四月、保健師が理紗被告と面会した際、健康状態に不安があるとして継続支援を決定。その後も乳児健診や予防接種を受けておらず、虐待の恐れがあると認識していた。だが、保健師が自宅を訪問しても紗花ちゃんに会えない中、事件が起きた。市は第三者委員会を設置し、当時の対応を検証している。

起訴状によると、一月三〜二十五日ごろ、自宅で十分な食事や水分を紗花ちゃんに与えずに放置し、衰弱死させたとしている。

児童虐待問題に詳しい日本大学危機管理学部の鈴木秀洋准教授は「紗花ちゃんや母親の視点に誰も立てなかったか。保育、保健、住民など多くの情報があった。母親を支援することで紗花ちゃんを救えたはずだ」と市の対応を批判した。

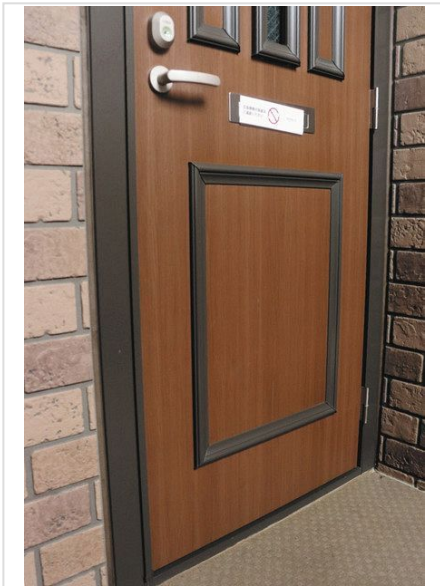
(鈴木みのり、山口登史)



首都圏ニュース 千葉

# 異変気づいていたのに…「何かできたのでは」自問する近隣住民 市原乳児衰弱死

2020年9月19日 05時55分



小西紗花ちゃんや理紗被告らの家族が住んでいたアパートの玄関

千葉県市原市で1月、生後10カ月  
すずか  
の小西紗花ちゃんが衰弱死した事件  
で、千葉地検は18日、保護責任者遺  
棄致死罪で、母親の無職小西理紗容  
疑者（23）を起訴した。母親が健康状  
態に不安を抱え虐待リスクが高いとし  
て、事件前から周囲も異変に気付いて  
いたが、悲劇を防げなかった。

## ◆ゴミ山積み、紗花ちゃん見たことなかった

理紗被告は事件前、アパートで夫と幼稚園児の長女、保育園児の長男、紗花ちゃんの5人で生活。住民によると昨

年9月ごろから部屋の窓はシャッターが閉められ、ベランダはゴミが山積み。一家の姿を見ることが少なくなったという。

近くの30代男性は、長女と長男がよくアパート1階のベランダで砂遊びをしていたのを見たといい、「親が子どもに構っていないと感じた」。紗花ちゃんについては「見たことがなく、4人暮らしだと思っていた」と振り返る。

近所の30代女性は、理紗被告と「(子どもが)大きくなったね」と言い合う仲。人見知りだったが、声を掛ければよく話したという。だが、昨年6月以降は顔を見ることがなくなった。長女と長男を園に自転車で送迎していたといい、「一生懸命子育てに取り組んでいた。事件になる前に、何か自分にもできたのではないか」と自問する。

## ◆長女長男も休みがち…幼稚園が市に連絡

昨年秋ごろから、長女と長男は幼稚園や保育園を休みがちに。保育園関係者は「(理紗被告は)それまでも育児疲れのような様子があった。欠席が増え、おかしいと思っ

た」。昨年12月には、被告が以前連れていた紗花ちゃんを見かけなくなると、幼稚園が市に連絡していた。

市原市は昨年4月、保健師が理紗被告と面会した際、健康状態に不安があるとして継続支援を決定。その後も乳児健診や予防接種を受けておらず、虐待の恐れがあると認識していた。だが、保健師が自宅を訪問しても紗花ちゃんに会えない中、事件が起きた。市は第三者委員会を設置し、当時の対応を検証している。

## ◆ 「母親支援すれば救えたのでは」

起訴状によると、1月3～25日ごろ、自宅で十分な食事や水分を紗花ちゃんに与えずに放置し、衰弱死させたとしている。

児童虐待問題に詳しい日本大学危機管理学部の鈴木秀洋准教授は「紗花ちゃんや母親の視点に誰も立てなかったか。保育、保健、住民など多くの情報があった。母親を支援することで紗花ちゃんを救えたはずだ」と市の対応を批判した。（鈴木みのり、山口登史）